

港区立白金小学校 平成28年度 授業改善推進プラン

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・児童憲章
- ・都、区教育目標

教育目標

個性的で創造的な行動と、協調的で愛情のある行動ができ、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる。

◆合言葉 「自分を見つめ まわりを見つめ
ひとを生かし 自分をいかし
めあてをもって 努力を続ける」

- ・学校・児童・地域の実態
- ・保護者や地域の期待や願い
- ・期待される児童像
- ・教師の願い

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

- ・全教育活動において、話し合い活動を重視した学習を実施し、表現力・対話力を身に付ける指導を行う。
- ・少人数指導やTTなどの指導の最適化及び工夫を通して、指導・支援を的確に行い、基礎基本の学習の習熟と個に応じた指導の充実を図る。
- ・各教科及び総合的な学習の時間において、児童自ら課題を見つけ、課題を解決する問題解決能力を育成するとともに、思考力・表現力の育成を図る。
- ・音楽朝会の充実を図り、音楽が流れる校内環境を目指し、豊かな情操を育成する。
- ・体育科の授業・運動朝会・休み時間を活用し、健康な体づくりの増進と維持への意識と実行力を育成する。
- ・各教科・領域の学習活動の中で、それぞれの関連を図ったカリキュラムを作成し、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います

- 道徳教育の指導の重点**
- 全教育活動を通して、人間尊重の精神を培い、協調し合う実践的態度の育成を図る。
- 道徳教育を核とした人間尊重の教育を推進する。特に「合言葉」「心のノート」等を活用し、他者を思いやる心情の深化に努める。
- 総合的な学習の時間**
- 児童の興味関心をもとに、問題解決的な学習の充実を図り、主体的に課題を追究し解決できる資質や能力を育てる。
- 様々な交流活動を通して、コミュニケーション能力を高め、他者理解・文化理解を深める。
- 個やグループでの活動を支援するために、保護者や地域の方をゲストティーチャーとして活用するなど、指導体制を工夫する。

教科名	
国語	○話す・聞く・読む・書く活動において、比較関連付けて考えたり、自分の考えをもって表現したりする活動を多く取り入れる。 ○言語(漢字・ローマ字含む)の力を付けるために、定期的な漢字確認テストや短作文など、既習漢字を書く機会を取り入れたり、東京ベーシックドリルを活用したりする。 ○話している内容を整理しながら聞くなど、日常の練習を重ね、聞く・話す能力を身に付ける。
社会	○根拠となる資料を探したり、それを元にして理由を考えさせたりする。 ○資料が示す事実や意味について考える。 ○複数の情報を読み取る活動を取り入れる。 ○資料を比較・関連させて、考える思考の過程を重視する。
算数	○問題解決的な学習の充実を図り、多様な考え方、思考過程を大事にしていくノート指導や説明する活動を取り入れる。 ○習熟度別少人数指導による個に応じた指導、算数学習に対する意欲を高める工夫を行いスキルを高める。 ○確実な定着のためにプリント教材、ドリル学習、家庭学習に継続的に取り組む。
理科	○見通しをもった計画的な観察の場や個別的な実験の場を用意する等、体験的活動を充実させ、問題解決能力・態度の育成を図る。 ○仮説・予想を立てる学習過程を重視し、実験・観察前の情報収集と予想や、結果をもとに話し合いにより結論を導き出すことなどにより、児童の豊かな発想を引き出す。
生活	○地域・社会・自然とのかかわりが具体的に把握できるよう、校外での学習を積極的に取り入れ、活動や体験を通して、関心をもたせる。 ○活動や体験で身に付けさせたい力やめあてを明確にして、学習に取り組むことができるように指導する。生活科で体験したことから得られた様々な気持ちを国語の学習と連携し、学んだ知識を生かして明確に表現できるように指導する。 ○安全教育を充実させ、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる等、自立への基礎を養う。
音楽	○曲想を感じ取り、その中に自分の思いが表現できる学習を計画する。 ○鑑賞と表現が関連し連動する学習過程で取り組む。 ○リコーダーの運指など個別指導を継続する。
図工	○自分の思いをもって作品制作に取り組めるような学習を計画する。 ○鑑賞したことを自分の作品に生かせるよう、作品を見る力を付ける学習を計画する。 ○はさみ、のり、カッターなど様々な材料・用具にふれる機会を多く設定する。
家庭	○裁縫や調理実習・洗濯など実践的な活動を通して、基礎的な技能を身に付けさせ、児童自らが創意工夫できる発展的な活動へとつなげる。 ○個人差に対応するために、個の課題に応じた教材や指導法の工夫を図る。 ○家庭との連携を図り、学習したことを実際の生活の中でも活用できるようにする。
体育	○計画的に様々な領域の運動に触れさせ、運動することの楽しさを味わわせる。 ○体育の学習をはじめ、休み時間などの体育的活動を通して、運動の日常化を促し、体力の向上を図る。 ○学習カードを活用し、教師の指導と評価に生かしていくことで児童の技能、思考判断、態度の育成を図る。
国際科	○発達段階に応じ、系統性をもたせた指導計画と、学習到達目標を明示したCAN-DOリストに基づいた指導により、国際人に必要なコミュニケーション力を育てる。 ○全学年での専科教諭による指導・少人数指導、5・6年でのモジュール学習等により、英語に接する機会を増やし、英語表現に慣れ親しませていく。

- 生活指導の重点**
- 「白金スタンダード」に基づいた白金小学校のきまりを徹底し、社会規範や公共心について指導する。
○自分の姿やまわりとの関わりを振り返る場を設定し、他者と協調してよりよい生活を築いていこうとする態度の育成を図る。
○生活指導に関する研修を充実させ、スクールカウンセラー等と連携しながら、いじめ、不登校などの予防、早期発見・解決に努める。
- 進路指導の重点**
- 自他ともに認め合い、よりよい生活を築こうとする態度を育てる。
- 学ぶこと・働くことの意義を知り、互いに協力し合う喜びや達成感を味わわせる。
- 将来に対する夢や希望をもち、努力する態度を育てる。
- 自分の考えをもち、目標に向かって努力する態度を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

教育過程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○授業時数の確保(土曜日授業の実施・行事時数の見直し) ○日本漢字検定全員受験 ○異学年交流の充実 ○国際科、朝モジュールの実施(高学年) ○運動朝会・休み時間を活用した体力づくりの充実 ☆教科指導と関連付けた図書活用計画の作成	○週ごとの指導計画、授業記録の作成と活用 ○問題解決的な学習、体験的学習の重視 ○算数少人数指導(第2学年以上) ○音楽専科による指導(第2学年以上) ▲ICTを活用した授業の展開 ☆国際科の専科化(全学年)	○学力テスト結果の分析 ○国際科アセスメントの実施 ○保護者・地域による学校評価の実施 ○評価規準に基づいた指導と評価 ○児童の自己評価・相互評価の活用 ▲国際科におけるCAN-DOリストの作成	○校内研究の充実 研究主題「国際人としての素養を培う教育課程の編成」 ○児童理解を深める共感的理解に基づいた情報交換 ○高松アカデミーにおける研修会の実施 ▲OJT研修、教員相互の授業観察の実施	○学校公開、授業参観、道徳地区公開講座の実施・学校行事の充実 ○近隣大学の留学生との交流 ○青少年赤十字への加盟 ○特設クラブ(合唱団、バスケットボール、陸上) ○多様な地域人材の活用 ○学校評議員会との連携 ○学校だより及び学校HPによる情報公開の充実